

提言付属資料

# 競技のレガシー計画 —水泳のモデルケース—

都政改革本部

オリンピック・パラリンピック調査チーム

2016年11月1日

※検討のためのモデル資料（教材的）であり、今後本格的な検討が必要

# 水泳レガシー

## 東京 2020

作成中

「センターポールに  
日の丸を！」(水練)



外国人スイマーの留学  
(インバウンド)



国際交流の加速  
(育成・運営ノウハウなど)

競技会が最高の質で開催  
されるための精緻な運営手法  
・ノウハウの蓄積と交換

トップクラス候補生や  
ジュニアの育成メカニズム



シニア大会  
・シニア支援

トップアスリートの経済  
的支援、キャリア形成支援



水泳を通じた経済的効果  
…世界大会の経済効果、  
健康寿命延伸の経済的効果など

### オリンピック アクアティクスセンター

VR/AR 技術を駆使した  
技術の日本の世界発信

水泳の科学的研究の  
進化、効果の医学的  
証明と、それらの  
他分野への応用

水泳のメッカとしてのエリ  
ア再開発プランと、エリア  
一帯の賑わいの創出

最新技術によるフォーム  
解析・リアルタイム投影



自分のフォームだけでなく、コーチ  
やトップ選手、ライバルなども投影し、  
スチールアップやモチベーションとする

シンクロナイズド  
スイミング



アスリート向け食事の提供  
(JISS との連携)



育成メカニズム、  
コーチングシステム



練習メニューとアプリの連動  
アプリと投影システムとの連動

巨大駐車場、バスによる  
アクセスの大幅改善

都内プールネットワーク  
による役割分担

- 大型
- 民間
- 学校

学校プール資産の積極活用

主要施設の早朝からの  
オープン (社会人向け)



日本の水泳文化の国内外へ  
の発信、拡散



バリアフリー  
ユニバーサルデザイン

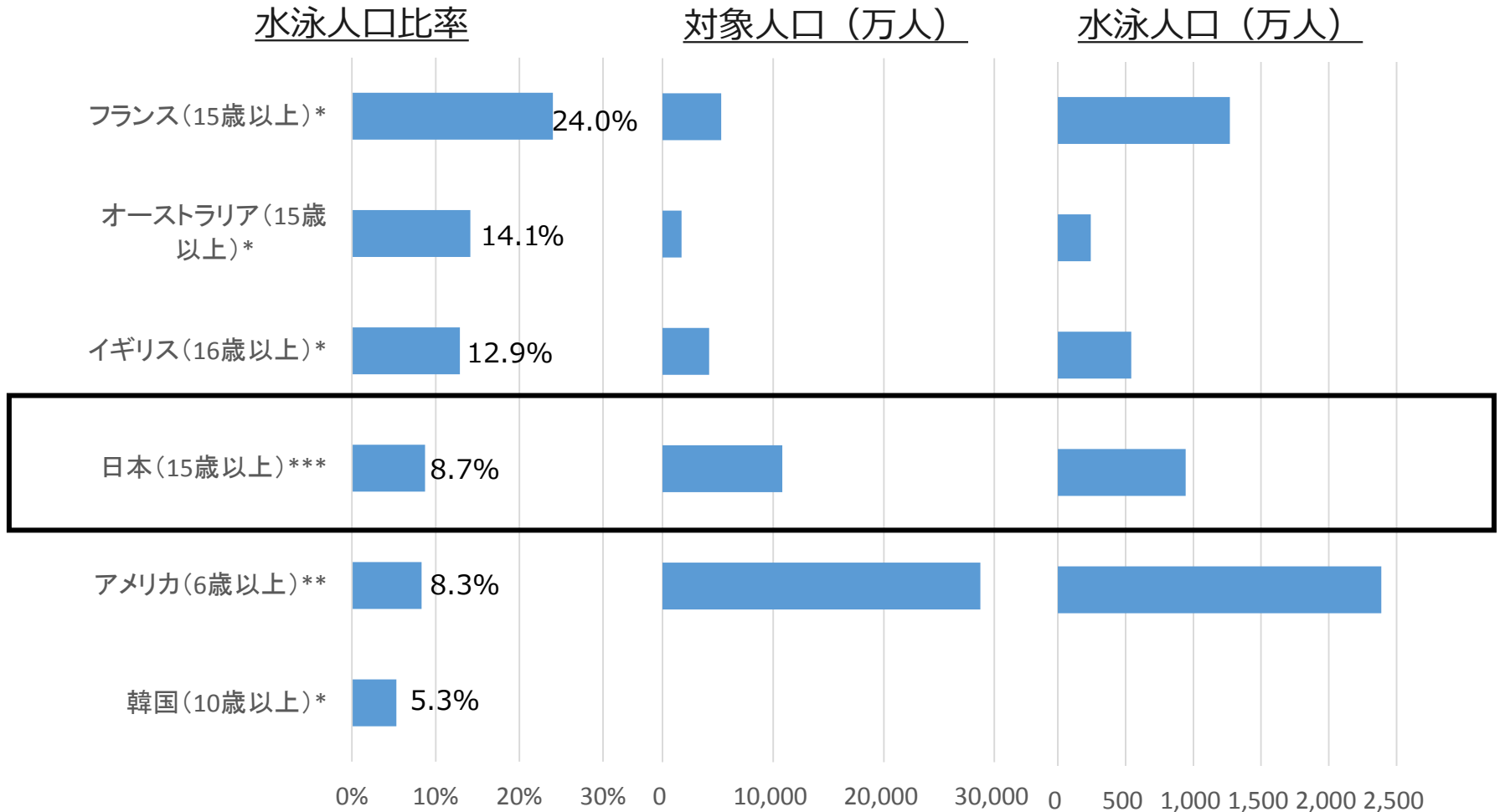


- 第1章 水泳の現状
- 第2章 プールというもの
- 第3章 水泳の社会価値
- 第4章 現状評価
- 第5章 アスリートと人生キャリア
- 第6章 辰巳が果たした役割
- 第7章 新辰巳の考え方
- 第8章 レガシー戦略
- 第9章 復興支援、東北と水泳

日本の水泳人口は海外の水泳が盛んな国に次ぐ割合である

作成中

## 水泳人口 諸外国との比較



※データは日本は平成23年、それ以外は平成21年時点の数字

\*文科省「諸外国および国内におけるスポーツ振興施策等に関する調査研究」(平成22年度)

\*\* 2013 SGMA「Sports & Fitness Participation Topline Report」

\*\*\*総務省「平成23年社会生活基本調査」

国内でも愛好者が多く、メダル数も世界でも屈指

作成中

## 水泳の位置づけ

スポーツの種類別行動者数(H23)(全国)		
順位	種類	行動者数※(千人)
1	ウォーキング	40,172
2	ボウリング	14,621
3	水泳	12,030
⋮		
10	野球	8,122
11	サッカー	6,375

<出所> 平成23年社会生活基本調査(総務省)  
※年に1回以上そのスポーツを行う人数

オリンピックにおけるメダル獲得数		
順位	国	メダル数
1	アメリカ	166
2	オーストラリア	86
3	中国	67
4	日本	42
5	ロシア	41

※ シドニー、アテネ、北京、ロンドン、リオオリンピックにおける水泳競技(競泳、シンクロ、飛込、水球)の金、銀、銅メダルの合計

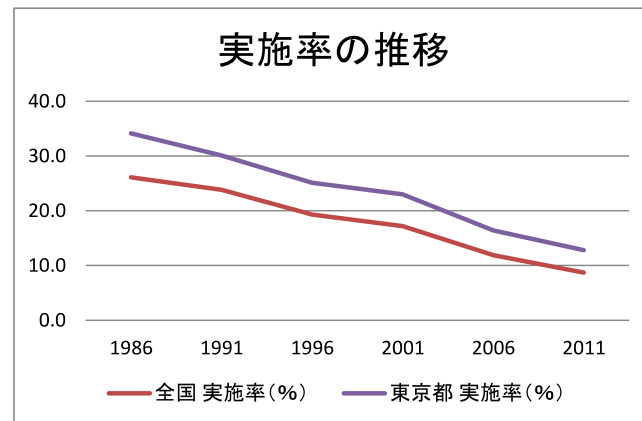
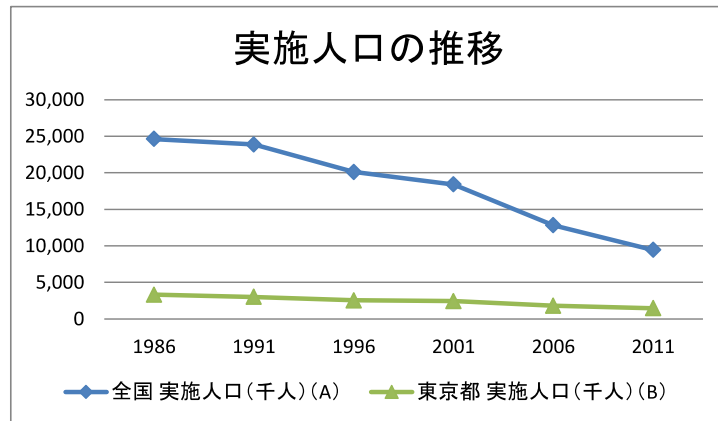
○ 水泳人口の推移

・水泳人口の推移

※ 15歳以上で、年に1回以上水泳を行った者の数

		1986	1991	1996	2001	2006	2011
全国	実施人口(千人)(A)	24,611	23,854	20,111	18,408	12,818	9,440
	実施率(%)	26.1	23.8	19.3	17.2	11.9	8.7
東京都	実施人口(千人)(B)	3,305	3,013	2,541	2,427	1,799	1,468
	実施率(%)	34.1	30.1	25.1	23.0	16.4	12.8

<出典> 社会生活基本調査(総務省統計局)



東京都の競技登録者数自体は増加し、本格化は進んでいる

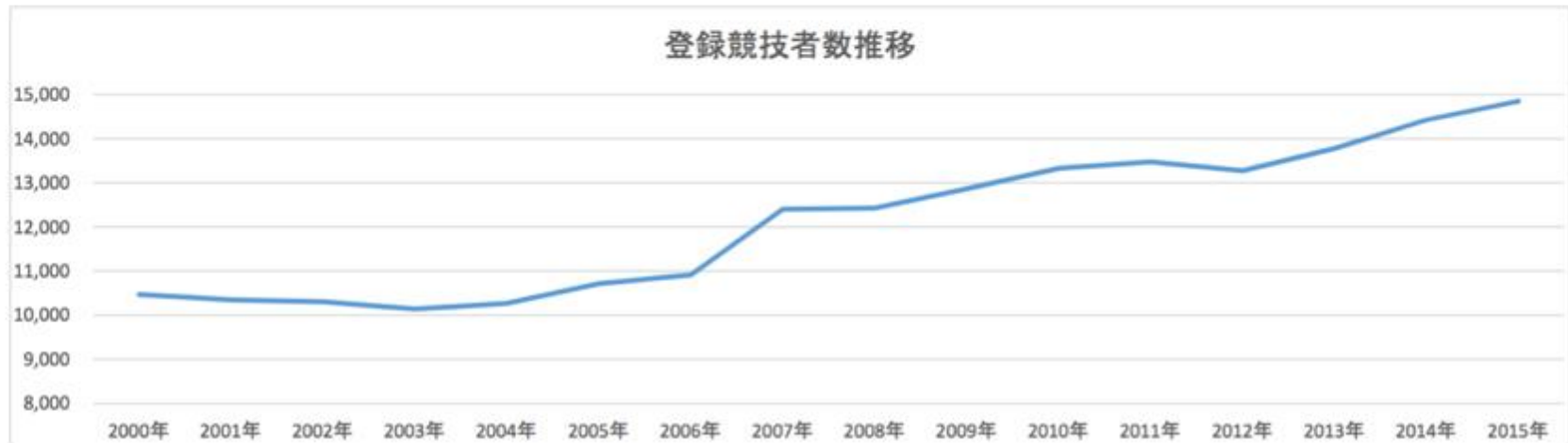
作成中

2016/10/14作成  
公益財団法人東京都水泳協会

## 東京都競技者登録数

年 度	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
登録競技者数(人)	10,469	10,349	10,310	10,143	10,269	10,716	10,914	12,406	12,428	12,868	13,332	13,478	13,278	13,785	14,431	14,853
前年度対比		99%	100%	98%	101%	104%	102%	114%	100%	104%	104%	101%	99%	104%	105%	103%

※公益財団法人日本水泳連盟有償競技者登録のみ

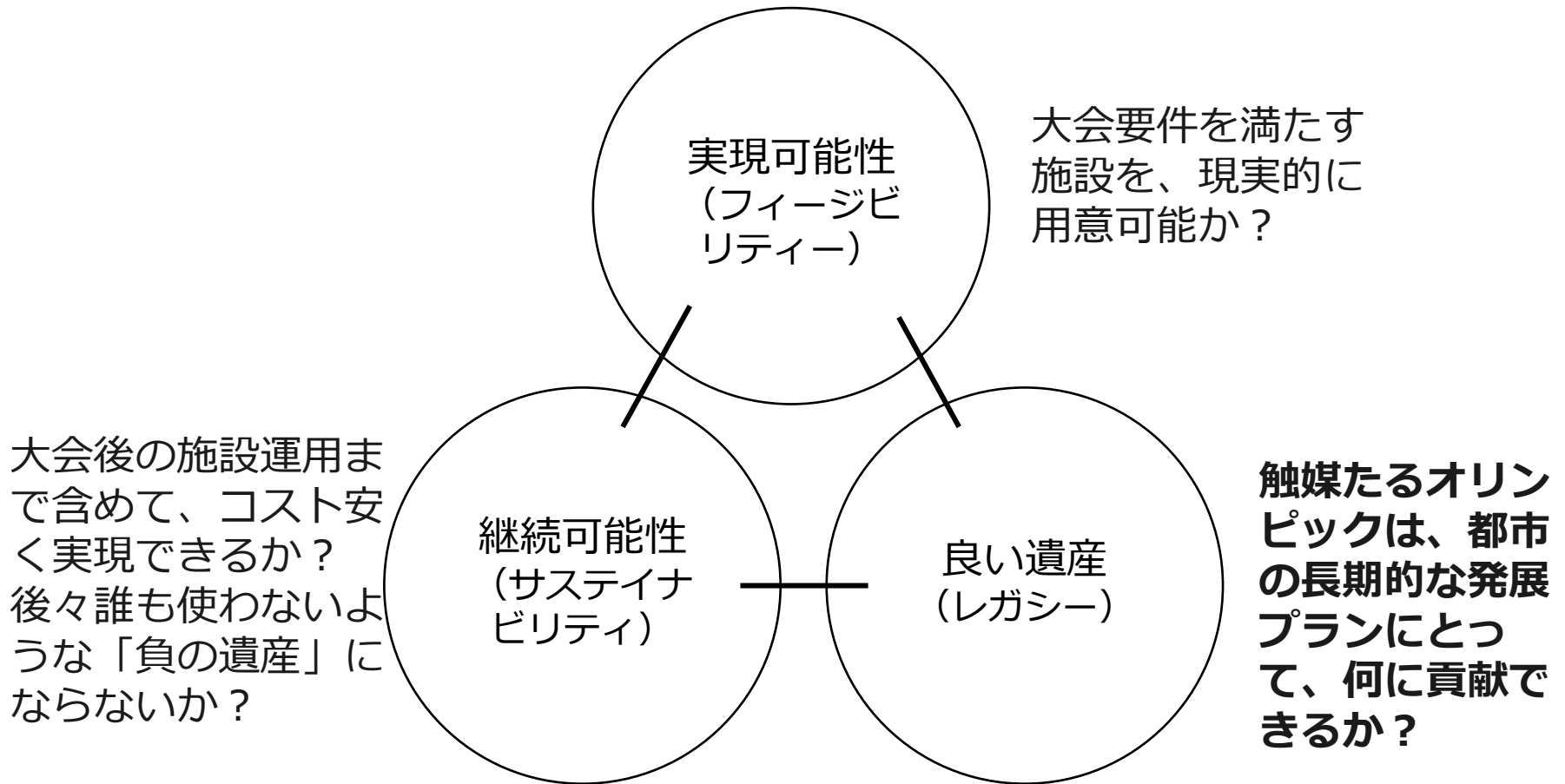


東京都では、  
シニアや入門なども増え続けている。

レガシーとは、オリンピックを触媒に、開催都市の長期的な発展プランをどうつくるか、  
が問われるもの

作成中

## IOCのキーワードとレガシー



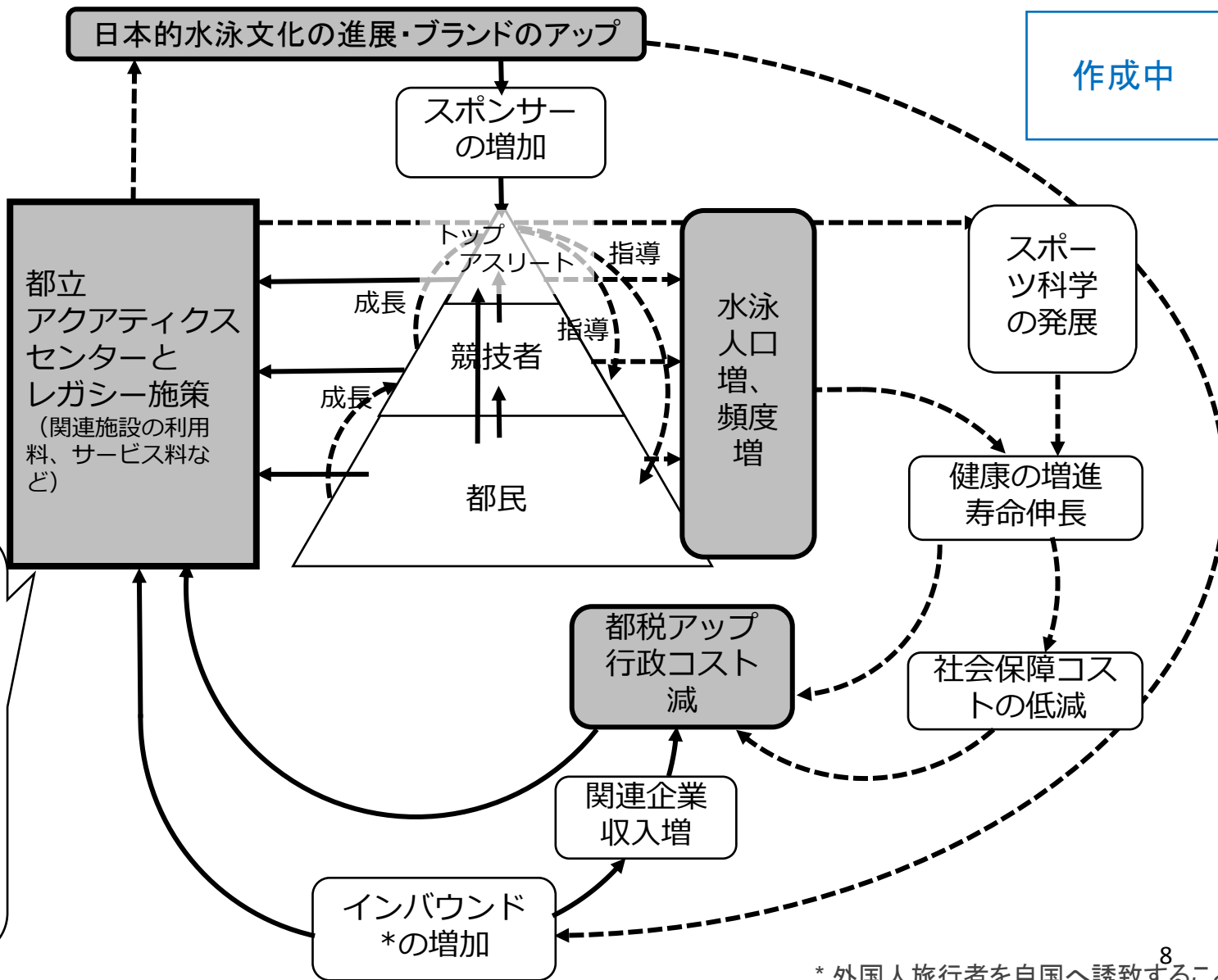


レガシーの充実により、単に施設利用料の増加だけでなく、税金増、インバウンド増など、様々な経済循環効果が期待できる

## レガシーと経済性・経済効果(例示)

← 経済の流れ

作成中



- 施設運営費だけの経済でない
- 施設だけでもない
- 建設費・運営費が大きなサイクルの中で回収される

\* 外国人旅行者を自国へ誘致すること

アスリートは、幼少期に泳いだプールに戻ってきて、オリンピックとして指導者を育成し、小さな子をわくわくさせるような、アスリートライフの好循環を作る

作成中

## アスリート人生における各施策・施設の位置付け(例示)

